

日本でソフトボールをメジャースポーツにするためには何が必要か

近藤 史菜（愛知教育大学）

はじめに

日本は夏季オリンピックで金メダルを獲得するなどソフトボール強豪国であり、学校体育でもソフトボールは扱われている。しかし、メディアに取り上げられる機会などを考えるとメジャースポーツとして位置付けられているとは言い難い。

そこで、本研究ではソフトボールの歴史と今日における現状を調べ、ソフトボールの魅力がより多くの人に広まるようにするにはどのようなことが必要であり、今後、求められるかについて考察した。

1. ソフトボールの概略

ソフトボールは1887年、ジョージ・ハンコック(George W. Hancock)がボクシンググローブを投げてホウキの柄で打って遊んでいた人たちを見て一つのボールゲームにまとめたことで誕生した。

ソフトボールという名称は1926年、ウォルター・ホカンソン(Walter Hokanson)によって初めて用いられ、1932年に様々な名称で呼ばれていた球技をソフトボールという名称に統一した。

アメリカで誕生したソフトボールが日本に伝来したのは1921年、大谷武一(1887-1966)が学校体操科の遊戯として紹介したことが始まりと言われている。プレイグラウンドボールとして教科に採用され、学校体育の中で普及したが、1946年に進駐軍の勧告でソフトボールに改称した。

2. 日本におけるソフトボールの現状

日本はオリンピックや世界大会で世界一の栄冠を手にするなどソフトボールの強豪国の一つである。ソフトボールとなると女子のイメージが強いが、男子も2021年現在ポイント数で世界ランク1位である。

日本ソフトボール界の最高峰で実業団の選手たちが戦う日本ソフトボールリーグはオリンピック後、メディアに取り上げられる機会が増えた。

そして、2022年の春にはJD.LEAGUE(ジャパンダイヤモンドリーグ)という新リーグが開幕する。オリンピックの正式種目から再び除外されることが決まっている中で、オリンピックの存在がなくても注目を集めるリーグを創りあげるということは競技普及に関わる大きな一歩だと考えられる。

3. 若年層への競技普及に向けた課題

日本中学校体育連盟の統計からこの10年で競技人口は男子が半数以下、女子は約4割の減少となり顕著な減少が見てとれる。全国高等学校体育連盟の統計でも中学校同様この10年で競技人口は減少している。女子に関しては、ソフトボールに打ち込む生徒数が中学校の約半数であり、継続率の低さも中・高の統計を比較することで見えてきた。

ソフトボールは約100年前に日本に伝わり、現在も学校体育で取り上げられている。しかし、学習指導要領には「学校の実態に応じて取り扱わないことができる」とあり、道具や場所を確保できず実施されない学校もある。

また、小学校では学級担任がほとんどの授業を指導するため授業準備にかかる時間の少なさなどにより競技の特性を理解し適切な指導をすることが難しい現状がある。

おわりに

本研究から主題に対する結論を二つ見出した。一つ目は、メディア媒体で試合を取り上げること、二つ目は小学校でのソフトボールの授業を充実させることである。

まずは興味を持ってもらうためにSNSなど若年層の利用率が高いツールを使ってソフトボールという競技に触れてもらう機会を増やす必要がある。

また、子どもたちがソフトボールの楽しさを実感できるような授業を創り上げるために教諭の研修や授業研究会への参加などを積極的に行なっていく必要がある。